

## 神戸大学医学部附属病院 広報誌

H20.10.10 NO.7

## 楠 だより 季刊

発行責任者： 病院長

編集： 神戸大学医学部附属病院広報委員会



今月の花：ツルムラサキ

## ご紹介

## わかりづらい医療用語辞典 2

病理診断科 伊藤 智雄

前号で誤解されやすい医療用語辞典を掲載しましたが、幸い好評を得ましたので専門用語辞典をシリーズ化してお届けいたします。

今回からは国立国語研究所が選んだ「患者にわかりづらい医師の言葉100語」に基づき、解説をいたします。この中には明らかに医師が患者に伝える言葉として専門的に過ぎ、不適切と思われるものも含まれているように感じられます。医療関係者も今後、より一般の方にもわかりやすい言葉を用いるよう努力してゆかねばなりません。

## 悪性腫瘍（しゅよう）

「腫瘍」は、新聞などでは「しゅ瘍」と表記されていることが多いようです。われわれ人間の体は、常に細胞分裂が行われていますが、きちんと抑えられており、必要以上には大きくなりません。しかし、さまざまな原因によって、勝手に

必要以上に際限なく大きくなる異質な細胞の集団ができることがあります。これを「腫瘍」と呼びます。

しかし、良性腫瘍は「できもの」になっても、その場所だけで大きくなるだけです。ですから切除すれば完全に治ります。

一方の「悪性腫瘍」は、周囲の組織を壊し、さらに「転移」を示します。「転移」とは、例えば、大腸がんが肝臓に飛ぶように、他の部位に飛んでさらに「できもの」を形成することです。

悪性腫瘍にもさまざまなものがあり、本当に悪性のもから、実は放っておいてもほとんど短期的には影響のないような穏やかなものまで様々です。

進行度によっても全く病気の影響は変わってきます。「悪性」と言われると大変ショックを受けるものですが、「悪性」＝「治らない」ではありません。適切な診断・治療が重要です。

## 悪性リンパ腫

我々の体には免疫をつかさどるリンパ球と呼ばれる白血球の一種があります。これらリンパ球は、リンパ節や、さまざまな臓器にもあり、いろいろな外敵と戦っています。これら「リンパ球」が腫瘍になったものが悪性リンパ腫です。リンパ球の塊ができてしまい、放置すればさらに全身へと広がります。

悪性リンパ腫にもさまざまな種類があり、悪性度も様々です。ほとんど治療しなくてもゆっくりと長年かけて経過するものから、あっという間に大きくなるものまで様々です。

## イレウス

このような用語が含まれていることは驚きです。完全に専門用語であり、本来、医者が患者様に伝える言葉ではありません。イレウス ileus = 「腸閉塞」です。

腸を食物が通らなくなってしまう状態です。単なる便秘とは異なります。腫瘍など様々な原因で「詰まっていたり、締め付けられたりして食物が通らない状態」である機械性イレウスと、「腸管の動きが止まって食物が通らない状態」である機能性イレウスがあります。

## インスリン

インシュリンとも呼ばれます。ホルモンの一種で、さまざまな働きをしますが、血糖を下げるという重要な作用があります。すい臓のランゲルハンス島という場所で作られています。

製薬として、糖尿病の治療に用いられ

ます。

## 院内感染

患者や医療関係者など、病院内にいる人たちの間で病原体が伝染してしまうことをいいます。正常の人では問題とならないような微生物でも、体が弱っていたり、治療などで免疫力が低下している場合には深刻な影響を及ぼすことがあります。本院でも、対策チームを作り、その防御に全力を尽くしています。

## インフォームドコンセント

医療関係者の間では有名な言葉ではあるのですが、英語の安易な使用と言えるかもしれません。患者さまに様々なことをきちんと正確に説明し（informed）、同意（consent）を得たうえで治療を行うということです。現在の医療の基本的な考え方です。

## インフルエンザ

風邪と同列に扱われやすいものですが、より深刻なものです。インフルエンザウイルスによる感染症であり、近年、H5N1型鳥インフルエンザや治療薬タミフルをめぐる話題で大きく注目を浴びるようになりました。風邪と同列に扱われがちですが、より深刻なものです。

有名な大流行に1918-19年のスペイン風邪が知られ、数千万人が亡くなったといわれます。いま、全世界がH5N1などの深刻なインフルエンザ感染に警戒をしています。今後、鼻噴霧式のより簡便なワクチンが登場してくる予定です。

## ウイルス

ビールスとも呼ばれます。専門的に言うと、蛋白と核酸をもつ粒子で、細胞に感染して増殖します。細菌とは大きさが大きく異なり、大変小さなものです。普通の顕微鏡では見えず、電子顕微鏡でないとその姿は見えません。

よく「かぜバイ菌」と言われますが、実は大部分の風邪はウイルス感染です。使用する薬剤も細菌とは全く異なります。ウイルスには抗生物質は効きません。前項のインフルエンザもウイルス感染症のひとつです。

## 鬱血（うっけつ）

静脈（心臓に戻っていくほうの血管）に何らかの原因で血液が必要以上にたまっている状態です。動脈（心臓から血が出てゆくほうの血管）に血がたまると充血（じゅうけつ）と呼ばれます。

## 鬱病（うつびょう）

鬱病は精神疾患のひとつで、落ち込む、食欲がない、眠れないなどのうつ状態が病的に現れます。時に、「本人の努力不足ではないか」などと、明らかな理解不足による問題が起こります。本人の努力や気の持ちようでは治りません。

よく誤解されますが、「頑張って」などと励ますことも逆効果です。周りが病気であることを理解してあげなければなりません。専門家のアドバイスを受け、適切な治療を受けることが重要です。

### 診療時間

- 初診受付  
午前 8 時 30 分～午前 11 時 00 分
- 再診受付  
午前 8 時 30 分～午前 11 時 00 分
- 診療開始時間  
午前 8 時 30 分（初診・再診）
- 休診日  
土曜日・日曜日・祝休日・年末年始  
（12月29日から1月3日）

## ♪ ボランティア募集中 ♪

### ボランティア活動の内容

- ・玄関案内・タオルローリング・縫製・補修ミシン・花壇の手入れ
- ・寄贈本の整理と貸し出し・小児科病棟で読み聞かせ・病棟活動
- ・手芸教室・イベント（七夕、バザー、クリスマスプレゼント、折紙・工作教室、ひな壇飾りなど）

ご家族の理解とあなたの**あたたかい手助け**が、患者さまの心のやすらぎを得る環境作りに役立ちます。あなたの仲間入りを待っています。

神大ボランティアグループ **お問い合わせ：078-382-5057**  
(ボランティア室)



## 診療科最前線

## 不整脈の新しい治療法

## —心臓再同期療法—

循環器内科

生活習慣の欧米化，さらに本格的な高齢化社会を迎え，日本においても心不全患者数は増加しております。心不全の治療には，主として心臓の収縮機能を高める強心剤，血管を広げる血管拡張剤，心臓の筋肉を保護する薬剤などを用いる薬物療法と，人工心臓や心臓移植などの外科的治療があげられます。一方，薬物療法と外科的治療の中間に位置する画期的な治療法として「心臓再同期療法」が近年，注目されています。これは「両室ペーシング」という最新技術を駆使した治療法です。

心臓は全身に血液を送り出すポンプであり，休むことなく，一日に約10万回も拍動を繰り返しています。このポンプは筋肉でできており，上側の左・右心房ならびに下側の左・右心室という4つの部屋からできています（図1）。それらの4つの部屋がリズムカルに拍動を繰り返すことによって，心臓は効率的に血液を送り出しています。

心房と心室がリズムカルに収縮するために，心臓には上から下に電気刺激が伝わる伝達回路を持っています。起点は洞結節と呼ばれる場所で，1分間に約70回の電気刺激が作り出されます。洞結節で作られ刺激は心房の筋肉を収縮させた後，心臓の中部（房室結節）を通じて心室に伝えられます。その後，右脚・

左脚のそれぞれを通じて心室全体に伝えられ，心室の筋肉を刺激します（図1）。

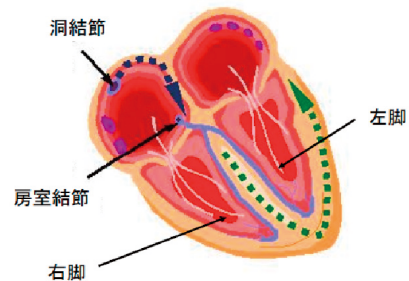


図1

心不全とは心臓のポンプ機能が鈍り，心臓が送り出す血液の量が少なくなることで呼吸困難などの症状が現れ，日常生活が困難になる状態をいい，心筋梗塞，心筋症，弁膜症など様々な心臓病がたどりつく病態です。心不全に至ると心臓内部での電気刺激の伝達が悪くなることがあります。正常では心室に伝えられた刺激は左右の脚をほぼ同時に伝わり，心室全体がいっせいに収縮します。ところが，心不全を呈すると刺激が左右の脚を同時に伝わらなくなることがあり，そうなる心室自体の動きにも“ずれ”が生じてきます。このような状態は“非”同期とよばれ，ただでさえポンプの機能が落ちている心臓の仕事がさらに効率の悪いものとなってしまいます（図2）。

このような“ずれた”心臓の動きをペー

ペースメーカーにより“元に戻す”ことを目的とした治療が「心臓再同期療法」です(図3)。

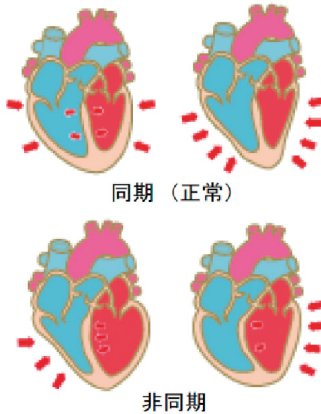


図2

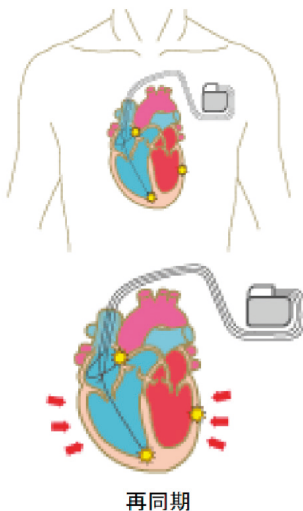


図3

ペースメーカーは心臓を24時間監視しながら、必要に応じて人工的に電気を発

し、心臓の動きをサポートするもので、脈が遅くなるタイプの不整脈に対する治療として確立されています。通常、不整脈治療の際は右の部屋に電極を挿入しますが、「心臓再同期療法」では左の部屋にも電極を挿入し、ペースメーカーの機能を利用して刺激が左右同時に伝わるようにすることで、心室全体が再び同期して動くようにします。両方の部屋より刺激が入るようになるため、「両室ペーシング」とも呼ばれています(図3)。

「心臓再同期療法」が学会で報告されたのは1994年ですが、日本でも寝たきりの心不全患者が日常生活を送れるまでに改善したという例が報告されており、2004年4月より保険適用となりました。

最近では両室ペーシングに加え、突然死の原因となる不整脈が生じた際に電気ショックにより心臓のリズムを回復させる除細動機能を併せもつタイプの機種も使用できるようになりました。

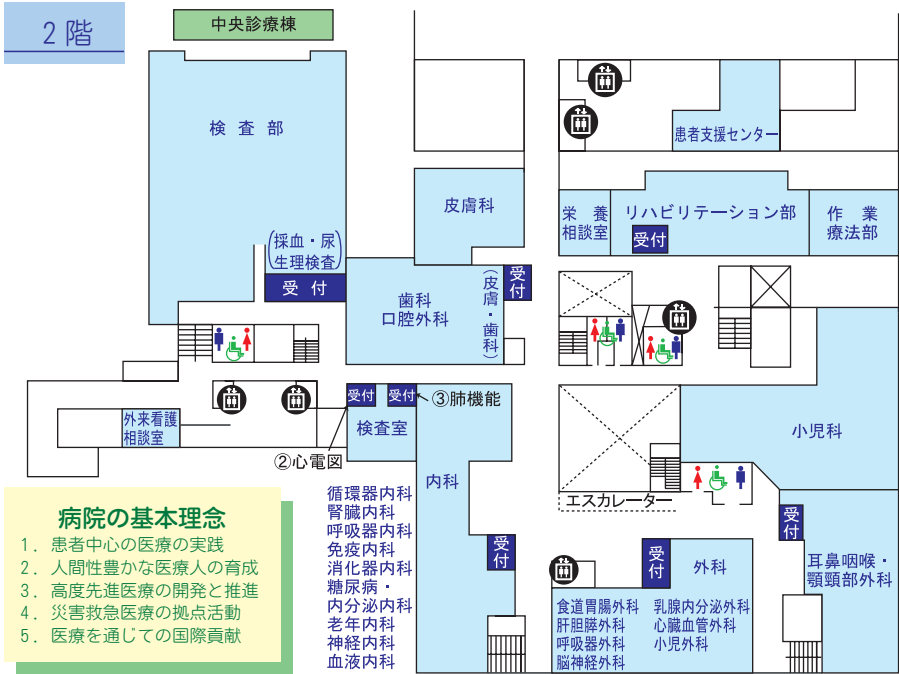
当院では保険で認可されて以来、いち早く「心臓再同期療法」に取り組んでおります。本治療についてさらに詳しいお話を聞かれない方は、ご遠慮なく当院循環器内科までご相談ください。

(文責：循環器内科 杜 隆嗣)

病院内 案内図

1階

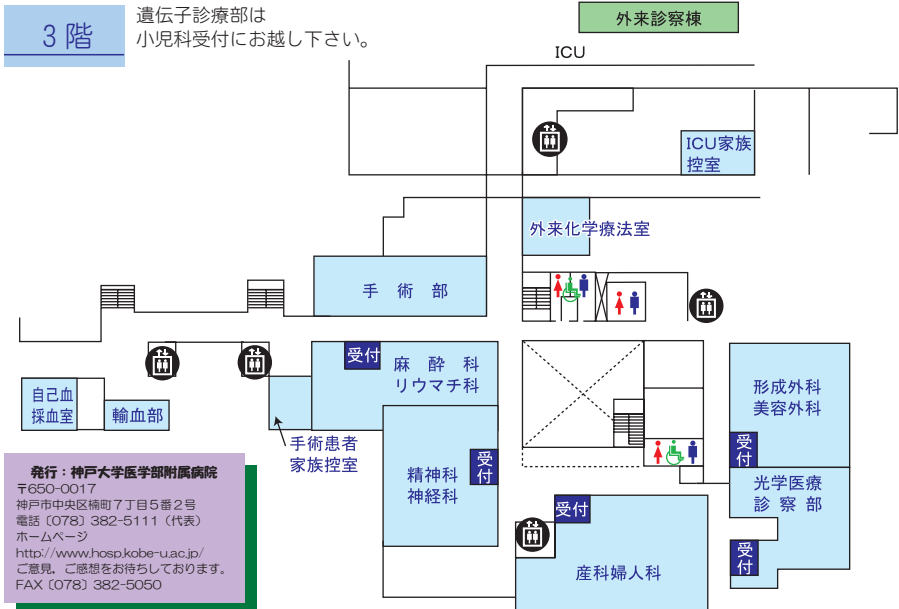




**病院の基本理念**

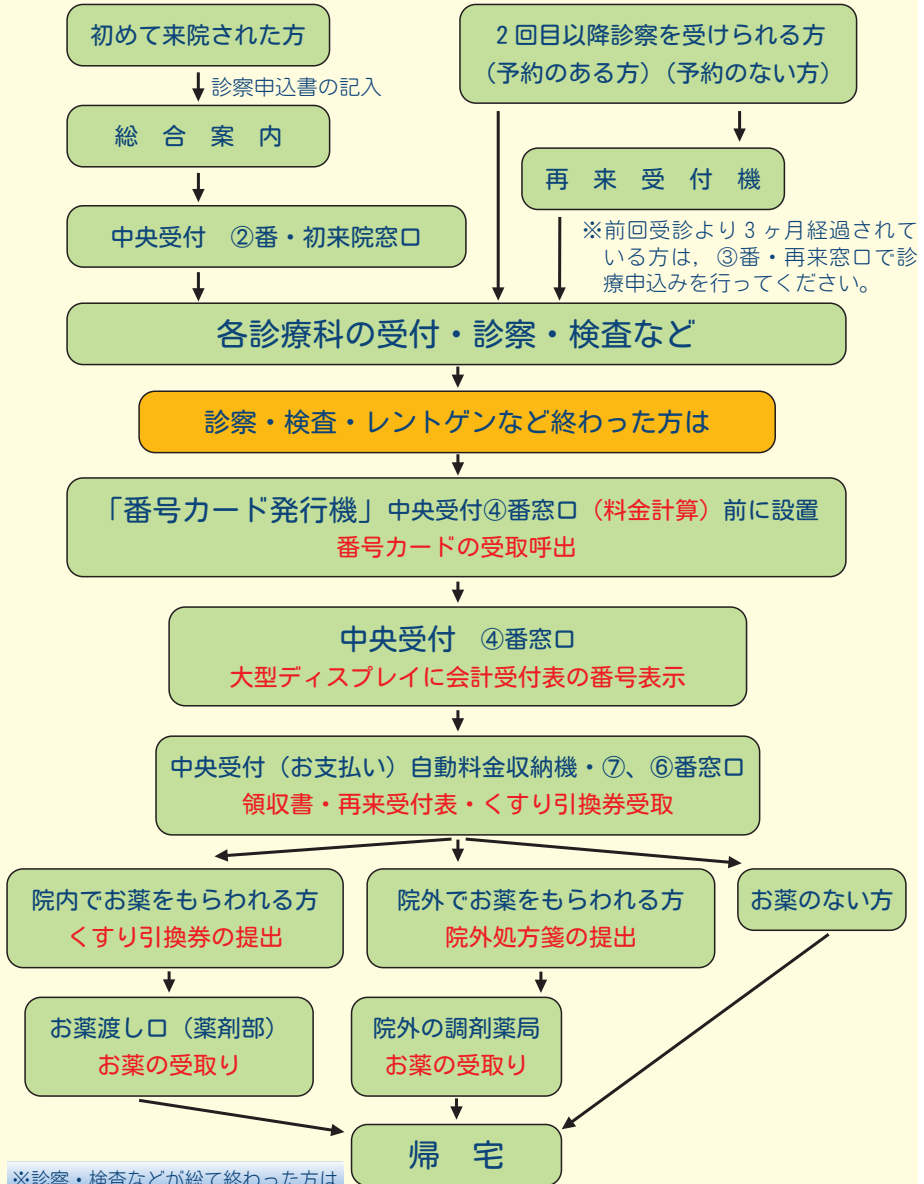
1. 患者中心の医療の実践
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と推進
4. 災害救急医療の拠点活動
5. 医療を通じての国際貢献

遺伝子診療部は  
小児科受付にお越し下さい。



**発行：神戸大学医学部附属病院**  
〒650-0017  
神戸市中央区楠町7丁目5番2号  
電話 (078) 382-5111 (代表)  
ホームページ  
<http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/>  
ご意見、ご感想をお待ちしております。  
FAX (078) 382-5050

## 受診の手続き



※診察・検査などが総て終わった方は

必ず 1階中央受付④番・料金計算窓口 にお越しください